BABY FIT しゅ！

その３　à l'accouchement　出産

② 分娩について

出産は全くの個人の体験ですから、人によってずいぶん違うと思います。すごく長かった人、短く感じた人、大変だった人、楽だった人。また、分娩にもいろいろなスタイルがあります。
これから何回かに渡って、個人の体験談をご紹介していきたいと思います。

ａ．無痛分娩の話

「やっぱり、あの産みの苦しみを味わわないことには」と諸先輩方に言われていたにも拘らず未知なる”痛み”に恐れを抱いていた私は、迷わず無痛分娩を選びました。病院はアパートから近いという理由でSt.LUCへ通いました。主治医の話では、St.LUCで出産する人の85% が無痛分娩を選んでいるとのことでした。また、痛みがないことによってお産の時間が短くなる、母体と赤ちゃんへのストレスが少ないことを挙げ無痛分娩を勧められました。St.LUCの中でも医師によってやり方が違うようですが、私の場合はあらかじめ無痛分娩を決めておき、麻酔のための血液検査を受けました。

陣痛が始まり、病院へ行き、内診を受けた後は陣痛室に入ります。分娩着に着替えて用意が整うと、麻酔医から麻酔を受けます。麻酔を打つのは子宮口が３～６㎝くらい開いたときです。麻酔は下半身への局所麻酔。腰より少し上の脊椎の部分にまず麻酔をし、長いチューブの付いた針を打ち込み固定します。出産までの間３回に分けて、チューブの先から麻酔薬を注入しました。まず最初は右側を下にして横たわり、次に左側を下に、最後に出産間際にベットに腰かけた状態で、下半身全体に良く効くようにしました。事前に麻酔医に体重を尋ねられたので、体重と麻酔の量は関係があるようです。
さて、麻酔が効き始めると痛みがほとんどないのであとは元気です。分娩室にはＢＧＭもかかり、リラックスできます。出産は夫の立ち会いでしたが、私に痛みがないために特に手伝うこともなく分娩室の中を色々見て回ったり、キネと三人でべちゃべちゃ世間話をしたり。出産経験者の友達に”信じられない！”と言われるぐらいの余裕でした。

時は穏やかに過ぎていきましたが、いよいよ出産です。陣痛促進剤は打ちませんでしたが、初産の割には時間が短いようでした。子宮の収縮や子供が外へ出ようとしている感じもよくわかりました。人によれば、そういう感じは全然わからなかったという話も聞きますので、私の場合麻酔医の当たりは良かったようです。
”ＰＵＳＨ！”のかけ声に合わせて５回いきんだときに、この数ヵ月間大きかったおなかがすーっ、ぺたんとなったのです。この瞬間は今でも忘れられない、不思議な感じでした。その後、子供が生まれて”あなたの赤ちゃんよ”とおなかの上へ置かれたときは、びっくりしました。

ベルギーでの出産は不安だったのですが、夫の立ち会いや痛みがないことでリラックスでき、自分自身満足のいく、いいお産ができたと思います。また夫も立ち会い、夫婦で感動を分けあえることができるので、満足しているようです。